

小 学 校

平成 31 年度（2019 年度）

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究仮説	1
IV	研究の方法	2
V	研究内容	3
1	授業研究（研究主題に迫る手だて）	3
2	実践事例	4
VI	研究の成果と課題	16

研究主題

主体的・協働的に学び、自己の成長を自覚できる児童の育成 ～「話し合い場面」、「振り返り」の工夫を通して～

I 研究主題設定の理由

現代の世界は、グローバル化や技術革新によって急激な変化を伴う時代となった。こうした時代における教育は、予測困難な未来においても力強く「生きる力」を育てていくことが求められる。

総合的な学習の時間の第一の目標において、「学びに向かう力・人間性等」に関しては、「探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う」ことが示されている。この実現のためには、児童が課題解決に向けて真剣に本気になって取り組むことができるような質の高い学習を成立させることが求められる。

しかし、本研究員の所属校の教員にアンケートを行ったところ、約7割の教員が総合的な学習の時間において、「児童が設定した課題の方向性が違い、個の学習で終わってしまう。」や「いつ、どのように学級全体で話し合えばよいか分からない。」などが挙げられた。教員は、児童に探究的な学習に協働的に取り組ませることに難しさを感じていることが考えられる。

また、本研究員が担任する学級の児童の、探究的な学習の状況について分析を行ったところ、約4割の児童が学ぶことの意義を自覚し、自分のよさや可能性に気付いたり、学んだことを自信につなげたりしていないことが明らかになった。その理由として、教師が学習の目的を児童にしっかりともたせていないこと、児童自らが自己変容を自覚するための振り返りを設定していないことなどが考えられる。

こうした状況を改善していくために、単元計画を組み立てるに当たり、特に「話し合い場面」と「振り返り」の工夫に着目することとした。目的が明確になった話し合いを児童が行うことで、自分の考えが変容したりより強固なものになったりしたことを、児童は自覚できると考えたからである。

以上を踏まえ、研究主題を「主体的・協働的に学び、自己の成長を自覚できる児童の育成～『話し合い場面』、『振り返り』の工夫を通して～」とした。なお、主題にある「自己の成長」とは、本研究においては「話し合い場面」を通して児童の考えが変化するだけでなく、より強固なものになることも含むこととしている。

II 研究の視点

- ① 主体的・協働的な学びが促進される「話し合い場面」の工夫
- ② 自己の成長を自覚できる「振り返り」の工夫

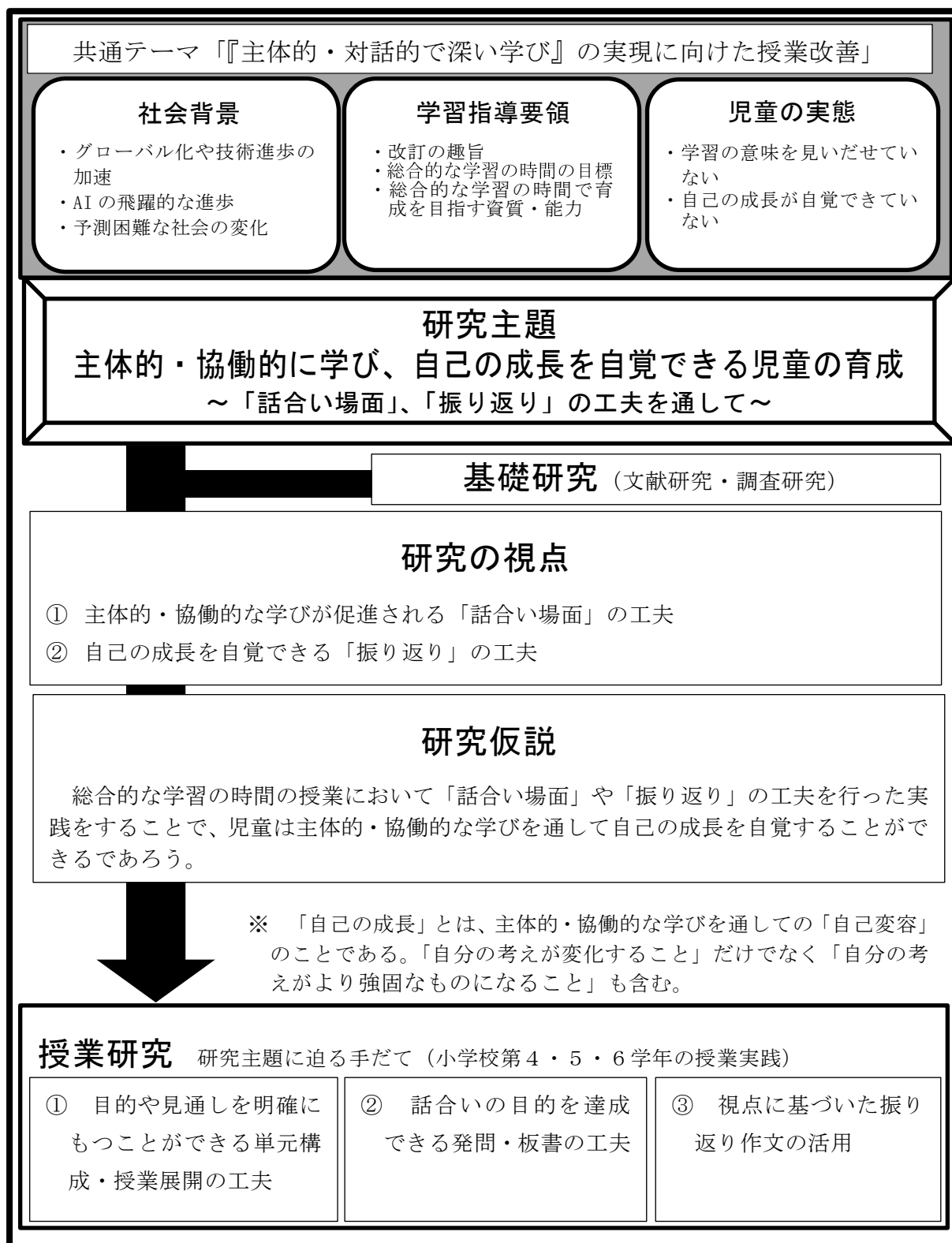
III 研究仮説

総合的な学習の時間の授業において、「話し合い場面」や「振り返り」の工夫を行った実践をすることで、児童は主体的・協働的な学びを通して自己の成長を自覚することができるであろう。

IV 研究の方法

1 基礎研究	2 授業研究
(1) 文献研究を通して、総合的な学習の時間における協働的な学習や振り返りの在り方を探る。 (2) 調査研究を行い、児童の総合的な学習の時間での成長の自覚について実態を把握する。	(1) 児童の振り返りから、話し合い場面における児童の変容を分析する。 (2) 授業研究を行い、手だての有効性を検証する。

(研究構想図)



V 研究内容

1 研究主題に迫る手だて

(1) 目的や見通しを明確にもつことができる単元構成・授業展開の工夫

教師が探究的な学習の文脈を想定し、単元の中に「話し合い場面」を適切に設定すれば、児童は「〇〇を話し合いたい。」や、「こうやって話し合いたい。」などという思いをもって話し合うことができると考えた。また、授業中の児童一人一人の記録や③に示す児童の振り返り作文から、児童の探究の様子や思考の流れを常に捉え、当初作成した単元計画を見直し、必要があれば修正した。このことで、児童の思考の流れに沿って追究できると考えた。このように、児童の思考の流れに基づいた一連の知的営みの中で、児童は学習への取組が真剣になり、身に付けた知識及び技能を活用し、その有用性を実感するとともに、見方が広がったことを喜び、学習への意欲が更に高まると考えた。

また、③に示す振り返り作文から、児童が次時に追究したいことを的確に把握し、1単位時間の探究的な学習の文脈を児童がつくっていくことも、同様の理由で行うこととした。

(2) 話し合いの目的を達成できる発問・板書の工夫

「話し合い場面」において、児童がもつ話し合いの目的を達成できるように教師が適切に関わり、児童の話し合いを活性化させていくことが必要であると考えた。具体的には、発問と板書を次のように工夫した。

【発問例】

- ・ 学習の展開を問う発問をする。
(例：「今日は何を話し合いますか。」「どのように話し合いますか。」など。)
- ・ 立場を問う発問をする。
(例：「あなたはAの考えですか、それともBの考えですか。」など。)
- ・ 賛否を問う発問をする。
(例：「〇〇という意見について、あなたは賛成ですか、反対ですか。」など)

【板書例】

- ・ 児童が立てためあてを板書する。
- ・ 話し合いの論点が焦点化される板書をする。
- ・ 目的に向かって思考していけるように板書をする。

このような発問や板書を「話し合い場面」において適切に行うことで、児童は時間内に話し合いの目的を達成できると考えた。さらに、目的を達成した児童は、話し合いの有用性を実感することができると考えた。

(3) 視点に基づいた振り返り作文の活用

充実した話し合いの内容を振り返ることで、児童は、自分の考えが変化したり、強固なものになったりしたことを自覚できるようになるとともに、次時以降の学習の目的や見通しを見いだせるようになると考えた。そこで、「話し合い場面」において、児童が話し合った内容を振り返る時間を設定した。具体的には、授業の最後に振り返り作文を書くようにした。振り返り作文に書く内容は、以下の3点を提示した。

- ・ 次にやりたいこと・やるべきこと（次時以降の学習の目的や見通しを見いだすことができる。）
- ・ 友達のよかったところ（他者から評価してもらうことで、自己の成長に気付くことができる。）
- ・ 自分と友達の考えを比べて思ったこと（他者の考えと比較することにより、自己の成長に気付くことができる。）

また、児童が成長を自覚していない様子である場合は、児童が書いた振り返り作文について、教師が称賛するコメントを書いたり、次時の授業の導入時やその他の時間に紹介したりして、自覚できるようにした。

2 実践事例

実践事例1 【探究課題：食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業従事者(食)】(第5学年)

ア 単元名 「田んぼで発見 ～地域にズームイン～」(45時間)

イ 単元の目標と評価規準

(ア) 単元の目標

地域の農業について学ぶ活動を通して、地域の農業のよさや問題点を見だし、地域の一人として自分にできることを考え実践しようとする態度を養う。

(イ) 単元の評価規準

観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(主)
評価規準	(1) 目的に応じた情報収集・整理分析・表現の方法を理解し、選択している。 (2) 探究的な学習を通して、都内で有数の生産量を誇る地域である理由や農家が協力して農業の発展に取り組んでいること等について、理解を深めている。	(1) 農業体験や農家との関わりを通して、地域の農業のよさと問題点に気づき、課題を見いだしている。 (2) 課題解決に必要な情報を集め、整理・分析し、追究している。 (3) 伝える内容と相手を明確にし、分かりやすくまとめたり、表現したりしている。	(1) 友達と協力して探究的な学習に取り組み、自分や友達のよさに気付いている。 (2) 探究的な学習を通して、自己の地域に対する捉え方の変化に気づき、地域の一人として愛着と自覚をもち、できることを実践しようとしている。 (3) 地域の方との関わりを通して、地域に対する思いや願いをもち、地域の方々や地域のよさを尊重しようとしている。

ウ 単元設定の理由

児童が住む地域は、都内第一位の野菜の収穫量を誇る農業地域である。本校では、総合的な学習の時間を中心に、地域の多くの農家から学んでいるものの、地域の農業が優れていることについて学ぶ機会が少なかった。また、農業が盛んな地域であると同時に、高齢化や宅地化など、日本の農業と同様の問題点を抱えている。そこで本単元では、共通体験や社会科の学習と関連付け、地域の農業のよさや問題点に気づき、課題を見だし探究していく。探究していく中で、自分たちの地域の農業の素晴らしさ、地域の方々の思いや願いに気づき、地域の一人として自分にできることについて考え、実践できる児童の育成につながると考えた。

エ 単元指導計画【全45時間(○内は時間数)】

	探究	□主な学習活動	○教員の支援	評価規準
小単元Ⅰ わたしたち	設定課題の	□地域の農業について知識や体験を基に情報を整理し、課題意識を高める。④	○既存の知識や体験を基に学級全体で話し合い、課題設定ができるようにする。	思(1)
	収集情報の	□地域の農家を訪問し、それぞれの農家のよさや工夫について調べる。③	○情報収集の視点を学級全体で事前に話し合い、目的意識をもって訪問することができるようにする。	主(1)

ちの地域はどんな地域⑬	整理・分析	□情報を整理して伝え合い、農家のよさや問題点を見いだす。③	○それぞれの農家の工夫や地域の農業について整理し、よさや問題点が見いだせるようにする。	知(1) 思(2)
	まとめ	□見いだしたよさや問題点から、次の単元の課題を設定する。①(本時)	○地域の農業を応援するためにできることについて学級全体で話し合い、新たな課題を設定することができるようにする。	主(2)
小単元Ⅱ 地域を応援しよう⑨	課題の設定	□地域の農業を応援する方法を考えるために、より多くの情報を集める計画を立てる。①	○農家の思いや願いに沿った応援をするために、必要な情報を明確にする。	知(1)
	情報の収集	□地域の農業のあり方や、農家の思いについて、より広い視点で多くの情報を集める。④	○児童が考えた取組を可能な限り実現できるよう、活動サポーターや、活動の場の確保など、保護者や地域の方の協力を得ておく。	主(1) 思(2) 思(3)
	整理・分析	□情報を整理し、より広い視点から見た地域の農業のよさと問題点について話し合う。③	○地域の農業のよさや問題点について整理し、応援の方法について学級全体で話し合う。	知(2) 思(1)
	まとめ	□見いだしたよさや問題点をまとめ、応援する方法について考える。①	○農家の野菜作りにかかる思いや願いに着目させることで、自分たちに応援できることについて考えられるようにする。	主(2) 主(3)
小単元Ⅲ 地域を応援しよう⑬	課題の設定	□地域の農業を応援する具体的な内容や方法について話し合い、活動計画を立てる。②	○話し合いを通して、自分たちが応援できることについて主体的に考えられるようにする。	知(1) 主(2)
	情報の収集	□地域を応援する活動を行う。⑤	○農家の思いや願いを基に、児童が考えた取組を可能な限り実現できるよう、活動サポーターや、活動の場の確保など、保護者や地域の方の協力を得ておく。	主(1) 思(2)
	整理・分析・まとめ	□活動を振り返り、その成果と課題について話し合い、次の単元の課題を設定する。③	○結果だけでなく、地域の人や農家からの評価や、自分たちの地域への考え方の変化など、より広い視点から活動を振り返ることができるようにする。	主(1) 主(2)
	課題の設定	□地域の農業を応援する内容や方法について見直し、より効果的だと考えられる活動計画を立てる。②	○前時のまとめを基に、より効果的な活動を見直し、計画を立てることができるよう学級全体で話し合う。	知(1) 主(2)
	情報の収集	□地域の農業をより効果的だと考えられる活動を行う。⑤	○農家の思いや願いに寄り添った活動であるかを見直し、より主体的に活動をすることができるようにする。	思(3) 主(1) 主(3)
	整理・分析	□活動を振り返り、その成果と課題について話し合う。③	○これまでの単元全体の活動を振り返り、次年度に引き継ぐべきことを明確にする。	主(1) 主(2)

	まとめ・表現	□地域への思いや、活動の成果をまとめ、伝え合う。③	○伝え合うことで互いの変容やよさにも気付けるようにする。児童が地域の農業のために活動できたことに達成感や自己有用感を感じられるように価値付ける。	思(3) 主(2) 主(3)
--	--------	---------------------------	--	----------------------

オ 本時について (11/43 時間)

(ア) 本時の目標

前時に整理・分析した地域の農家の実態の結果を基に、自分たちが地域に関わっていくための活動の目的と見通しをもつ。

(イ) 本時の構成

	□主な学習活動 ・主な児童の発言	○教員の支援 ◆評価規準 ☆主題に迫るための手だて (①、②、③)
めあて・見通し	□前時までの活動を想起し、本時のめあてと学習活動について確認する。 ・農家訪問で、農家を応援したいけれど、具体的に何をすればよいのか分からないから、みんなと話し合いたい。 ・もう一度聞きに行きたいけれど、違う考えの友達がいるみたいだから、話し合おう。	☆前時の話し合いを想起させ、本時のめあてや学習活動を決めさせる。【①】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>これからの活動の目的と見通しをもとう。</p> </div>		
学び合い	□前時までの情報や振り返りを基に、これからの活動について学級全体で話し合う。 ・宅地化が決まっている農家の思いを考えると、何かできることをしたい。 ・農家が願っていることを聞きたい。 ・まだ十分に地域について知っているとは言えない。 ・最終的には、農家を応援する活動をしたい。何をすれば応援できるのか知るために、聞く内容をはっきりさせて、もう一度聞きたい。 □応援することを見付けるために、インタビュー対象者やインタビュー内容について、学級全体で話し合う。 ・まだ聞いていない農家はどのような思いや願いをもっているのか聞こう。 ・J Aに、東京都や八王子市の農業について聞くことで、地域のよさを見付けたい。	☆学級内が A 「何をすればよいか具体的ではないが、農家を応援するためにできることを考えたい。」 B 「もっと情報を集めたい。」 という考えに分かれると想定される。この対立に焦点を当て、話し合いの必然性をもたせることにより、今後の活動の目的や見通しが明確にもてるようにする。【①】 ○インタビューの目的が、地域の農業を知るためではなく、応援する方法を見いだすためであることが意識できるよう、児童が考えた質問内容を確認する。

まとめ・振り返り	<p>□本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の農家を応援するために、何ができるか分からなかったけれど、もっと情報を集めることによって、農家の立場に立って何ができるか考えられそうだ。 ・友達の考えは自分とは違うと思ったが、最終的な目的は同じだということが分かった。 	<p>☆振り返りの視点を明示し、児童の学びの深まりや見取る。【③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①次にやりたいこと ②友達のよかったところ ③自分と友達の考えを比べて思ったこと <p>◆友達と協力して課題解決に向け探究に取り組み、友達のよさや自分のよさに気付いている。主(2)</p>
----------	---	--

カ 考察

① 目的や見通しを明確にもつことができる単元構成・授業展開の工夫

年度当初に単元計画を考えた段階では、小単元Ⅰから小単元Ⅱへ円滑に移行できると想定していた。しかし実際は、「より多くの情報を集めないと、自分たちの活動が決められない。」という結果になった。そこで、児童の思考の流れと単元の目標にずれが生じないように、単元内の活動内容を修正した。その結果、納得いくまで情報収集ができる学習過程となり、児童は本気になって学習活動に取り組み、地域の農家が都内で有数の生産量を誇る理由や農家が協力して農業の発展に取り組んでいることへの理解を深めることにつながった。

農家を応援する方法を考える場面では、活動方法のみに着目し、活動の目的から逸脱する児童が見られた。このことから、教師は、児童の思考の流れを的確に捉え、授業展開を工夫していく必要があると考える。

② 話し合いの目的を達成できる発問・板書の工夫

児童の話し合いを活性化させるために、児童一人一人の立場や判断を迫るような具体的な発問を、意図的に繰り返し行った。例えば、野菜直売所に置かせてもらったアンケートの回収時期を決める場面では、学級内の児童が、「A：すぐに回収した方がよい。」と、「B：しばらく置かせてもらえるように交渉をしたい。」という二つの意見に分かれた。そこで、自分の考えがどちらの立場かを明確にした上で、AとBの両意見のメリットとデメリットについて話し合わせた。自分の立場を明確に示しながらも、友達の考えと比較し、関連付けて話し合い、学級全員が納得できる結論を出すことができた。

また、このような話し合いを板書する際、児童の発言のキーワードを板書したり、児童の考えの根拠を比較しやすいように、矢印やフレームで視覚的に板書したりした。このことで児童は、板書を見ながら話し合いの論点を確認できるようになり、考えを深めた発言をすることにつながった。

③ 視点に基づいた振り返り作文の活用

視点に基づいた振り返り作文を書くことを継続的に行った結果、「友達の考えを聞いて、いろいろな方法があると分かったので、方法を一つに決めるためにもっと話し合いたい。」という記述や「前は農家のために手伝おうと思っていたけれど、今は、迷惑になってしまふことが分かった。」などの記述が多くなった。このような思考の変容が見られる作文を次時に紹介すると、それを基に学習の見通しをもつことができた。紹介された児童は、自分の考えに自信をもち、より主体的に学ぶ姿が見られた。

実践事例2 【探究課題：実社会で働く人々の姿と自己の将来（キャリア）】（第6学年）

ア 単元名 「自分発見プロジェクト～働くことについて考えよ！～」(24時間)

イ 単元の目標と評価規準

(ア) 単元の目標

学習を通して将来への夢や憧れをもち、自分で調べたり、調べたことを発表したりして、自己の将来について考えようとする態度を養う。

(イ) 単元の評価規準

観点	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（主）
評価規準	(1) 実社会で働く人々との関わりを通して、将来働くときに必要な知識を理解している。 (2) どの職業でも相手意識をもち、誰かのために働いていることを理解している。 (3) 目的に応じた情報収集・整理分析・表現の方法を理解し、選択している。	(1) 社会の問題や自分自身に関わることや、友達との関わりから将来についての課題を見いだしている。 (2) 課題解決に必要な情報を集め、整理・分析し、追究している。 (3) 聞き手のことを考え、効果的な方法で表現している。	(1) 将来のことを考え、今の自分にできることを考えたり、夢に向かって計画的に生きようとしていたりしている。 (2) 多様な立場や他者の存在を受け入れ、自己の課題や学級の課題に対して協働的に取り組もうとしている。

ウ 単元設定の理由

第6学年は卒業を控えている学年であり、夢について語ったり、進学について考えたりすることもある。そのため、総合的な学習の時間の探究課題として実社会で働く人々の姿と将来について考えるキャリアを設定した。

厚生労働省の新規学卒就職者の学歴別就職後3年以内離職率の推移（平成27年度3月卒業者の状況）を見ると、中学卒は64.1%、高校卒は39.3%、大学卒は31.8%と、決してその離職率は低くない。様々な状況が考えられる離職率だが、小学校の学習で働くことについて考えたり、大人が働くことにおいて大切にしていることに触れたりすることで、少しでも将来の自分の仕事に生きることを期待し、本単元を設定した。

エ 単元指導計画【全24時間（○内は時間数）】

	探究	□主な学習活動	○教員の支援	評価規準
小単元Ⅰ 働くことについて	設定課題の	<input type="checkbox"/> 夏休みに調べた情報を友達に伝える。① <input type="checkbox"/> 働くことの意味や働いている人の信念や生き方について考える。② <input type="checkbox"/> 小単元の見通しをもつ。①	○各自調べてきた情報を交換する時間を設ける。	思(1) 主(1)
	情報の収集	<input type="checkbox"/> インタビュー内容を考える。① <input type="checkbox"/> 学校公開週間でインタビューを行い、様々な職業の方から情報を集める。④	○学年の保護者には学年便りで活動の趣旨を伝え、インタビューをしやすくさせる。 ○教員にも活動の趣旨を伝え、空き時間に協力するようお願いをする。	思(2)

て考えよう⑫	整理・分析	<input type="checkbox"/> インタビュー結果を職業ごとに比較して、集めた情報を整理する。① <input type="checkbox"/> 整理した情報を分析する。①（本時）	○職業は違うが共通していることや、その職業にしかないことなどの情報に注目させる。	知(1) 知(2) 思(2) 主(2)
	まとめ・表現	<input type="checkbox"/> 情報の活用方法を考える① ↓ 本での発表 「12歳のハローワーク」	○集めた情報は下級生も活用できるようにまとめさせる。	知(3) 主(2)
小単元Ⅱ 下級生にも伝えよう⑫	定課題の設定	<input type="checkbox"/> 本に載せる内容を考える。① <input type="checkbox"/> 小単元の見通しをもつ。①	○小単元Ⅰのインタビューを通して集めた情報を必ず生かすように意識させる。	思(3)
	集情報の収	<input type="checkbox"/> インタビューを通して集めた情報を再度整理したり、足りない情報をインターネットや書籍から集めたりする。②	○情報を集める際は、グループごとに役割を分担し、効率的に進むようにする。	知(3) 思(2) 主(2)
	整理・分析	<input type="checkbox"/> 情報を本にまとめる。⑥	○読みやすく分かりやすい本にするための工夫を考えさせる。	思(3)
	まとめ・表現	<input type="checkbox"/> 学級で完成したものを発表したり、全校朝会で下級生に発表したりする。① <input type="checkbox"/> 次の単元への見通しをもつ。①	○本についてのアンケートを作成し、下級生に回答してもらうことで、活動が振り返りやすいようにする。アンケートを基に、次時の活動への意欲付けも行う。	主(2)

オ 本時について（11/24時間）

(ア) 本時の目標

インタビューで集めた情報を分析し、インタビューした職業の共通点や相違点を見付けることができる。

(イ) 本時の構成

	<input type="checkbox"/> 主な学習活動 <input type="checkbox"/> 主な児童の発言	<input type="checkbox"/> 教員の支援 ◆評価規準 ☆主題に迫るための手だて (①、②、③)
めあて・見通し	<input type="checkbox"/> 前時までの活動を想起し、本時のめあてと学習活動について確認する。 <input type="checkbox"/> インタビューで集めた情報を詳しくグループで分析したい。	☆以下のような前時の振り返りをいくつか紹介し、本時の活動への意欲付けを行う。【①】 (i) 1学期の学習のように、学んだことを5年生に向けて発表したい。 (ii) 整理したものを詳しく見ていきたい。 (iii) 自分の夢のことを詳しく調べたい。

集めた情報を分析しよう。

<p>学 び 合 い</p>	<p>□グループごとにまとめた情報を分析する。 ・教師と警察官を比べると、相手のことを考えて仕事をしていることは同じである。警察官で特別なことは、事件に関わることだ。 ・給食配膳員と飲食店の店員はどちらも食べ物を扱うので、清潔にすることや安全のルールを守って働いている。 ・専業主婦と事務員を比べると、行っていることは全く違うけど、自分のためだけでなく、家族や会社のためも考えて働いている。 □グループごとに分析した内容を発表し、全体で共有した後、更に分析を行う。 ・教師と教師を比べたけど、一人一人の大切にしていることが違う。 ・パートタイムの人同士を比べて、時間の都合をつけやすい働き方ということが分かった。</p>	<p>○まとめやすいようにワークシート（ベン図）を各グループに配る。 ◆課題解決のために集めた必要な情報を、整理・分析し、追究することができる。思(2)</p> <p>☆自分たちの情報だけでなく、他グループの情報にも注目させることで、全体で学ぶことのよさや話合いの論点を明確にする。【②】 ○他グループのワークシート（マトリックス）を印刷・配布し、比べたいグループのワークシートを1枚持っていくように指示する。</p>
<p>ま と め ・ 振 り 返 り</p>	<p>□本時の学習をまとめる。 ・働いている人は自分のことだけでなく、相手（家族、お客様、同僚、会社など）のことも考えて毎日働いている。 ・辛いことよりも楽しいことのほうが多いから働き続けられることが分かった。 ・同じ職業でも、みんな考えていることや大切にしていることは違った。 □本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 ・友達と関わることができたので、自分では見付けられなかった情報を見付けることができた。 ・この授業で学んだことを生かして、自分の将来の夢について調べ学習を行いたい。 ・学んだことを1学期と同じように5年生に向けて発表したい。</p>	<p>○他者を意識することや仕事を楽しむことの重要性に教師の発問で目を向けさせる。また、同じ職業でも人それぞれ考え方や大切にしていることが違うから、一人一人が働くときに信念をもって働くことがとても重要であるということをもて再度捉えさせる。</p> <p>○ワークシートに振り返りを書かせる。 ☆視点を「自分と友達の考えを比べて思ったこと」に絞った振り返りを書かせる。【③】 ◆多様な立場や他者の存在を受け入れ、自己の課題や学級の課題に対して協働的に取り組むことができる。主(2)</p>

カ 考察

① 目的や見通しを明確にもつことができる単元構成・授業展開の工夫

自分の将来のことを考えるキャリアを探究課題に設定したことで、「将来働く仕事に学んだことを生かしたい。」や、「人のためになる仕事に就きたい。」などのように、振り返り作文の中で学んだことを将来に生かそうとする記述をした児童が見られた。また、前時の振り返り作文の内容を授業の導入で紹介することにより、児童の本単元の学習に対する意欲を高めながら学習を行うことができた。

しかし、今回設定したキャリアは個人探究になる場面が多くあり、学級全体で課題を設定したり、学級全体の話合いを基に解決したり共有したりする場面の設定が困難だった。そのため、本単元の導入で働くことについて考え、働いている人たちの信念や大切にしていることを考える学習を意図的に組み込んだ。そのことで、信念を知るためにはどうしたらよいかという学級全体の話合いが生まれ、集めた情報を学級全体で分析する流れにつなげることができた。

教師が単元構成や授業展開を工夫する際に、児童の思考の流れを具体的に想定するためには、事前に学級の児童の実態を的確に把握するとともに、児童の授業中のつぶやきや振り返り作文の記述から、児童の現在の考えを常に確認することが重要だと考える。

② 話し合いの目的を達成できる発問・板書の工夫

前時までに、自分たちのグループの情報だけで学習を進めることができたが、本時で教師が、自分たちのグループの情報と他グループの情報を比較する発問を行うことで、児童が情報を更に分析する意欲を高めることを狙った。この発問によりグループ活動は活発になったが、授業開始時のめあての確認が不十分であったことや、めあてを板書することもなかったので活動が途中で停滞してしまった。また、児童が書き込んだ思考ツールをそのまま黒板に貼ったため、児童にとって見づらく、情報の共有が非常に困難な様子であった。このことから、授業展開を更に細かく想定し、様々な児童の反応に応じた考えを促すための発問や学習の流れが可視化される板書をする必要があると考える。

③ 視点に基づいた振り返り作文の活用

振り返りを書く視点を提示することで、全ての児童が授業を振り返ることができた。そして、①の考察でも書いたとおり、振り返りの記述を次時の導入で紹介することで、児童が主体的に学ぶことにつながった。

インタビュー活動をした後の振り返りでは、「自分は〇〇と思っていたが、働いている人たちに聞いてみたら□□であった。」や、「自分で◇◇と思っていたことは、インタビュー活動を試してみても△△であった。」などの記述をした児童が多く見られた。このことから、新たな情報から自分の考えが変化したり、より強固なものになったりしたという自覚をもった児童が多くいたと考えられる。また、単元終盤の振り返りでは、単元導入時の自分と比較し、「大人は、自分のために働いている人がほとんどだと思ったけど、家族や働くときに関わる人たちのことを思って働いている人がたくさんいることが知ることができた。」や、「人のことを考えて働くことがよいことだと学習を通して感じたので、私も将来人のためになることで仕事をしたい。」など、自分の将来につながるような振り返りを書いている児童もいた。このことから、視点に沿った振り返り作文を書き続けることで、児童は自らの成長を自覚し、働くことについて前向きに捉えることができるようになると思う。

実践事例3 【探究課題：安全で住みよいまちづくりとその取組（まちづくり）】（第4学年）

ア 単元名 「私たちの自まんのまち」

イ 単元の目標と評価規準

(ア) 単元の目標

安全マップ作りや地域の調査活動を通して、自分たちの住んでいる地域のよい点や問題点に気付き、地域の一員として地域をよりよくするために自分たちにできることを考え、実践しようとする態度を養う。

(イ) 単元の評価規準

観点	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（主）
評価規準	(1) 探究的な学習を通して、地域の現状を理解し、地域のよさや課題について、様々な視点を合わせた知識を身に付けている。 (2) 目的に応じた情報収集、整理・分析、表現の方法を理解している。	(1) 安全マップ作りやまちの調査を通して、地域のよい点と問題点に気付き、課題を立てている。 (2) 課題解決に必要な情報を、集め、整理・分析、追究している。 (3) 自分の伝えたいことを明確にし、相手を意識した方法でまとめたり、表現したりしている。	(1) 自分なりの目標をもち、友達と協力して粘り強く取り組むことを通して、自分のよさや可能性を理解しようとしている。 (2) 自分と友達の意見や考えの違いに気付き、受け入れようとしている。 (3) 身近な地域の問題に関心をもち、自ら関わろうとしている。

ウ 単元設定の理由

本校児童は、自分たちの住んでいる地域に好意的な児童が多い。本学級の事前調査でも、「地域のことが嫌い。」という児童は一人もいなかった。しかし、「この地域のどこがよいか。」との問いに対し、具体的に回答することは困難である様子の児童が多く見られた。

本単元において、地域のよい点や問題点を探究し、地域や関係諸機関に働き掛けることで地域がよりよくなっていく体験を積むことが、児童が自分たちの住んでいる地域をより深く知り、地域に一層の愛着をもつことにつながると考えた。

エ 単元指導計画【全35時間（○内は時間数）】

	探究	□主な学習活動	○教員の支援	評価規準
小単元Ⅰ 安全マップを作ろう⑨	課題の設定	□安全マップの作成方法を知る。① □安全マップ作りの計画を立てる。①	○「危ない場所」＝「入りやすい・見えにくい場所」だと共通理解するために、安全マップづくりに関するDVDを見せる。 ○住んでいる周辺や通学路のことは、誰よりもよく知っていることを想起させて、地区班別になるように活動のグループを決めさせる。	思(1)
	情報の収集	□地域に出て、危ないと思う場所の情報を集める。③	○地区班ごとの地図を用意する。 ○危ないと思われる場所を記録に残すため、デジカメを用意する。	知(1) 思(2)

	分析・整理・	□集めた情報を、安全マップに書き出す。②	○安全マップに、目印となる建物などを記入すると分かりやすくなることを助言する。	知(2) 主(1)
	まとめ・表現	□作った安全マップを報告し合い、情報を交換する。②	○集めた情報を共有し、地域には危ない場所がたくさんあるが、今まで危ないと意識していなかった事実を感想から引き出し、押さえる。	知(1) 思(3)
小単元Ⅱ 地域のよいところ・悪いところを調査しよう⑭	課題の設定	□安全マップの活動を振り返り、次の活動を話合って決める。① □「地域のよいところ・悪いところ」について調査する計画を立てる。①	○小単元Ⅰを振り返り、地域を意識的に見ていなかったことに焦点を当て、児童が抱いている「よい地域であってほしい。」という願いを引き出し、小単元Ⅱのゴールイメージをもたせる。	思(1) 主(2)
	情報の収集	□地域に出て、地域の方にインタビューしたり公園や街灯、落書きについて調査したりして、情報を集める。④	○スムーズにインタビューできるように、国語科第3学年「インタビュー名人になろう」の学習を想起させる。 ○デジカメと学区の地図を用意する。	知(2) 思(2)
	分析・整理・分	□集めた情報を整理する。① □整理した情報を分析する。①	○視覚的に分かりやすい整理の仕方になるように、算数科第3学年「表」、「棒グラフ」などの学習を想起させる。	知(2) 思(2)
	表現 まとめ・	□まとめたものを報告し合う。① □足りない情報を集め、整理する。① □情報を分析して、次の活動の見通しをもつ。①(本時)	○小単元Ⅱのゴールにつながるように、「よいところ」を広めるのか、「悪いところ」を改善するのか、小単元Ⅱのまとめとして方向性を決める。	知(1) 思(2) 思(3) 主(3)
	定 課題の設	□地域をもっとよくするために何をするか具体的に決める。① □活動の計画を立てる。①	○小単元Ⅱで調査した結果を想起し、取り組むべき活動を具体的に想像させる。 ○相手意識を明確にさせる。	思(1) 主(2) 主(3)
小単元Ⅲ 地域大好きプロジェクト⑮	情報収集	□地域をよりよくするための活動を実際に実践していくための情報を集める。②	○活動の実現に向けて、関係者に協力を得ておく。	知(2) 思(2)
	分析・整理・	□集めた情報を整理する。① □整理した情報を分析する。①	○集めた情報は実現可能かという視点で分析するよう助言する。	知(2) 思(2)
	表現 まとめ・	□地域の一員として地域をよりよくするための活動に取り組む。⑧ □活動を振り返る。①	○学習の成果に焦点を当てて振り返ることができるようにする。	思(3) 主(1) 主(3)

オ 本時について (20/35 時間)

(ア) 本時の目標

街頭及び校内のインタビューで集めた意見を比較することを通して、大人と子供の意見の共通点や相違点を明確にし、地域を更によくするために取組について自分の考えをもつことができる。

(イ) 本時の構成

	<input type="checkbox"/> 主な学習活動 ・ 主な児童の発言	<input type="checkbox"/> 教員の支援 ◆ 評価規準 ☆ 主題に迫るための手だて (①、②、③)
めあて・見通し	<input type="checkbox"/> 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 大人と子供の意見を比べて、地域をもっとよくするために 何に取り組むとよいか考えよう。 </div> <input type="checkbox"/> 本時の見通しを立てる。	☆ 探究的な学習の過程において、本時の位置付けを認識できるように、これまでの学習の流れを書き込んだ図を教室前方に掲示する。【①】 ☆ 本時のゴールを児童が自ら意識できるように、言葉掛けをする。【②】
学び合い	<input type="checkbox"/> 校内インタビューの集計結果を報告する。 ・ 地域のよいところは、自然があるところ。 ・ 公園と細い道をよくしたい。 ・ 駅の周辺や地下道に落書きが多いと思っている人が多い。 <input type="checkbox"/> 大人と子供の意見の共通点と相違点を学習班で話し合いながら考える。 <input type="checkbox"/> 個人が再考した意見を、学級全体で話し合う。 〈同じ・似ている点〉 ・ 地域のよいところ→自然が多いところ。 ・ 地域の改善したほうがよいところ→細い道。 〈違う点〉 ・ 大人は、よいところとして公園を挙げている。 ・ 子供は、改善したほうがよいところに公園を挙げている。	<input type="checkbox"/> 前時までの調査の様子を掲示し、いつでも確認できるようにする。 <input type="checkbox"/> 大人の意見と子供の意見の共通点と相違点を整理しやすいように、データチャートのワークシートを用意しておく。 <input type="checkbox"/> 大人の意見と子供の意見の共通点と相違点を意識し、話し合いの内容が視覚的に理解できるように表を使って話し合うように指示する。 ☆ 大人の意見と子供の意見の共通点と相違点を明確にし、話し合いの内容が視覚的に理解できるように表を使って板書する。【②】 ◆ 課題解決に必要な情報を集め、整理・分析、追究している。思(2)
まとめ・振り返り	<input type="checkbox"/> 本時のまとめをする。 ・ 大人と子供では、同じ質問でも同じ意見もあるし、違う意見もあるということが分かった。 <input type="checkbox"/> 次時の見通しとめあてをつくる。 ・ 次の時間に続きをして、みんなで話し合って何に取り組むか一つに決めたい。 <input type="checkbox"/> 個人の振り返りを、振り返り作文に書く。 ・ 私は、大人も私たちがまちのよいところは同じように感じていると思っていたけれど、違って驚きました。	<input type="checkbox"/> 学級全体で話し合ったことを振り返り、次時のめあてをもつ。 ☆ 手だての視点を意識して振り返り作文に書くよう促す。【③】 ◆ 身近な地域の問題に関心を持ち、自ら関わろうとしている。主(3)

カ 考察

① 目的や見通しを明確にもつことができる単元構成・授業展開の工夫

探究的な学習を展開するために、単元計画を教師の考えで詳細な部分まで先に決めるのではなく、③に示す児童の振り返り作文を活用しながら、児童の思考の文脈に沿って単元の目標が達成できることを意識した。前時は、まちの調査の報告を行った際に、「大人の意見は街頭インタビューで分かったけれど、子供の意見も知りたい。」と振り返り作文に多数書いてあったことを取り上げ、当初の単元計画を修正し、校内インタビューを行った。本時のめあてを確認する発問に対し、児童が明確に返答したことから、児童は、本時の必要性や単元の目的を強く意識して学習に臨むことができた。

しかし、本時の教師の目的が、地域をもっとよくするために取り組むことについて児童が自分の考えをもつことに重きを置いていたことに対し、児童の目的は、まず自分たちが整理したデータを慎重に比較し分析することに重点を置いていた。このことで本時の話合いの目的が教師と児童でずれが生じ、児童は本時の見通しをもつことが困難な様子であった。児童に見通しをもたせる際には、「何を、何のために話し合うのか。」という発問をし、話合いの目的を教師と児童、また児童同士が共通認識できるようにする必要があると考える。

② 話合いの目的を達成できる発問・板書の工夫

本時は、データチャートを用いた板書を行い、児童が大人と子供の意見の共通点と相違点を比較しやすくする手だてを行った。しかし実際は、児童の発言が多岐に渡り、板書の情報量が多かったため、大人と子供の意見を比べることが困難になり、話合いが停滞した。児童が話し合う際に根拠となる資料は、話合いの内容に即して情報を精選する必要があった。

しかし次時では、「大人も子供も自然が豊かなことをよいと考えている。」や「大人も子供も駅の周辺に落書きが多いと思っている。」などの共通点や、「大人は公園をよいと考えているのに対し、子供は公園を改善してほしいと考えている。」という相違点が浮き彫りになった。さらに、「駅周辺は明るい。」と考えている大人が多いのにもかかわらず、「駅周辺は暗い。」と考えている大人も多いなど、それぞれの意見の中でも矛盾点があることもデータチャートから浮き彫りになった。板書にデータチャートを用いて視覚的に整理した結果、全ての児童が相違点や矛盾点に気付くことができた。そして、次時の活動を考える際、浮き彫りになった相違点や矛盾点を更に調査すべきではないかという意見が多く挙がり、「相違点や矛盾点をさらに調査するための計画を立てよう。」という次時のめあてを、児童が立てることができた。

③ 視点に基づいた振り返り作文の活用

「話合い場面」の授業終末時に、児童が話し合った内容を振り返る作文を、視点を決めて書いた。本時でも、「大人の見解と子供の意見が違って驚いた。今までは、自分たちの考えるもっとよいまちだったけれど、誰にとってよいまちにしたらよいか悩む。」という振り返りもあり、教師が振り返る視点を提示することは、児童自らが自分の考えの変化を自覚できる手だてとして有効だと考える。

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 目的や見通しを明確にもつことができる単元構成・授業展開の工夫

本研究員の実践では、教師の想定とは異なる内容を、児童が振り返り作文に書く場面があった。例えば、授業後の多くの児童が振り返りに、「これまで調べてきたことを基に、次には〇〇をしていきたい。」と書くことを想定して計画を立てていたにもかかわらず、「もっと情報がほしい。」や、「もっと知りたい。」などのような振り返りが出てきた場面があった。そうした児童の思いや願いを教師が受け止め、単元計画を見直し、修正することで、児童は、目的や見通しを明確にして授業に臨むことができた。その結果、振り返り作文には、児童がもった学習の目的や見通しについて振り返ることにつながった。

(2) 話し合いの目的を達成できる発問・板書の工夫

手だて②に示した発問例を基に授業を進めた結果、次のような成果を得ることができた。

学習の展開を問う発問	児童が学習の展開を考えて進めることができるようになり、児童の探究の文脈から逸脱せずに学習が進むようになった。手だて①と関連性が強く、主体的な学習を促すことにつながった。
立場を問う発問	自分の立場が明確になることで、「自分がどちら立場か考えることで、相手の考えも詳しく知りたくなった。」などのような振り返り作文の記述が多く見られた。また、それぞれの立場の違いを理解した上で学級の納得解を考えたことで、「自分の考えにこだわるだけでなく、友達他の考えも取り入れてよい解決ができた。」と振り返り作文に話し合いの有用性を実感する記述も一定数見られた。
賛否を問う発問	「自分が賛成か反対か考えるときは、特に反対するときに相手のことをよく考えて発言するようになった。」という振り返りが見られた。相手意識をもって話し合いに参加することを促すことができることが分かった。

また、上記のような発問の中で、重要なキーワードを板書し、視覚的に話し合いの内容を示したことで、児童は話し合いの目的から逸脱することなく、話し合いを進めることができた。

(3) 視点に基づいた振り返り作文の活用

手だて③に示した三つの視点で、継続的に振り返り作文を書いたことにより、次のような成果を得ることができた。

次にやりたいこと・やるべきこと	教師がこの記述を基に、次時以降の学習を意識させることで、児童は目的や見通しをもって学習に臨めるようになった。その結果、児童一人一人の学習への取組が真剣になり、探究的な学びが充実した。
友達のよかったところ	児童が書いた振り返り作文について、教師が称賛するコメントを書いたり、次時の授業の導入時やその他の時間に紹介したりしたことで、児童の自己肯定感を高めることにつながった。その結果、多くの児童から、その後の学習に向かう気持ちが高まったり、自分自身のよさを自覚したりしている様子が見られた。
自分の考えと友達の考えを比べて考えたこと	「友達の考えを聞いて〇〇と考えるようになった。」や、「友達の考えを聞いて、確かにそういう考えもあるが、やっぱり自分の考えた△△がよいと思う。なぜなら～。」などのように、自分の考えが変化したり、より強固なものになったりしたことを自覚していると捉えることができる記述が多く見られた。

2 今後の課題

総合的な学習の時間における「話し合い活動」と「振り返り」を充実させるためには、児童の探究の文脈を一層明確に想定し、児童の思いや願いが生かされる単元づくりをする必要がある。そのためには、教師が学級の児童一人一人を的確に捉え、捉えたことを基に緻密に授業を構想することが大切である。

平成 31 年度（2019 年度） 教育研究員名簿

小学校・総合的な学習の時間

学 校 名	職 名	氏 名
墨 田 区 立 二 葉 小 学 校	主任教諭	◎松 原 大 樹
杉 並 区 立 久 我 山 小 学 校	教 諭	細 田 嘉 子
江 戸 川 区 立 清 新 ふ た ば 小 学 校	主任教諭	廣 濱 陽 一 郎
八 王 子 市 立 由 井 第 三 小 学 校	主幹教諭	瀧 直 子
武 蔵 村 山 市 立 第 十 小 学 校	主任教諭	壺 内 雄 大

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 岩森 一弥

平成 31 年度 (2019 年度)
教育研究員研究報告書
小学校・総合的な学習の時間

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849